

癌の播種性転移 に関する研究のお知らせ

帝京大学医学部附属病院では以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間：2022年2月22日 ～ 2030年3月31日

〔研究課題〕

中皮間葉転換を起点とする播種微小環境形成メカニズムの臓器横断的解明

〔研究目的〕

本研究の目的は、播種性転移の癌を取り巻く環境(癌微小環境)について詳細に検討し、どのような細胞から構成されているのかを検討します。

〔研究意義〕

癌の転移様式の1つに癌細胞が胸腔や腹腔に広がる播種性転移があります。胸腔や腹腔は中皮細胞で覆われており、これまで中皮細胞は癌細胞の侵入を防ぐ防御壁と考えられてきました。しかし、近年では中皮細胞が形質を変化させ(中皮間葉転換)、癌微小環境の構成細胞の1つになり、癌転移促進的な役割を有するとの報告もあり、中皮細胞の役割については未だ不明な点が多いです。本研究では癌微小環境における中皮細胞の動態に着目した詳細な検討を行い、播種性転移のメカニズムについて病理組織学的に明らかにします。転移機序を明らかにすることは、将来的に癌転移の予防および治療に寄与すると考えられます。

〔対象・研究方法〕

2000年1月1日から2025年7月31日の間に帝京大学医学部附属病院にて卵巣癌・消化器癌・肺癌で手術を受けた方を対象とします。原発巣および播種病変部の病理組織標本を用いて、癌細胞を取り巻く細胞を調べるために、免疫染色および共同研究機関の東京大学において病理組織標本上で発現遺伝子を網羅的に解析する空間トランスクリプトーム解析を行い、各種タンパク質の発現状態を詳細に検討します。患者様の性別、年齢、手術日、予後、癌取り扱い規約で規定されている病理学的情報(癌の発生部位、組織型、脈管侵襲、進行度、リンパ節転移など)を検体に付随する情報として、これらとの関連性も検討します。

〔研究機関名〕

研究代表機関 帝京大学医学部病理学講座 研究代表者: 准教授 菊地良直

共同研究機関 東京大学医学部大学院医学研究科 衛生学教室 研究責任者: 教授 石川俊平

〔個人情報の取り扱い〕

研究結果は、個人が特定できない形式で学会等において発表されます。個人情報をわからなく加工された情報は対照表を作成し保管します。共同研究機関の東京大学には個人情報の記載がないホルマリン固定後にパラフィンで包埋された組織ブロックのみ提供されます。収集したデータは、厳重な管理のもと、研究終了後10年間、帝京大学臨床研究センターで保管されたのちに破棄されます。

対象となる患者様またはご遺族様で、ご自身またはご家族の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。ご協力よろしくお願い申し上げます。

問 い 合 わ せ 先

研究責任者: 帝京大学医学部病理学講座 准教授 菊地良直
住所: 東京都板橋区加賀 2-11-1
TEL: 03-3964-1211(代表)